

四万十川流域の生態系ネットワーク形成の取組



四万十川流域におけるこれまでの取組(1)

1. 四万十川自然再生事業

四万十川自然再生事業は、失われつつある四万十川でかつて見られた白い礫河原と広い水面、冬にはツル類の越冬が見られる良好な自然環境の復元を目指すもので、3つの事業を柱に平成14年度より実施しています。

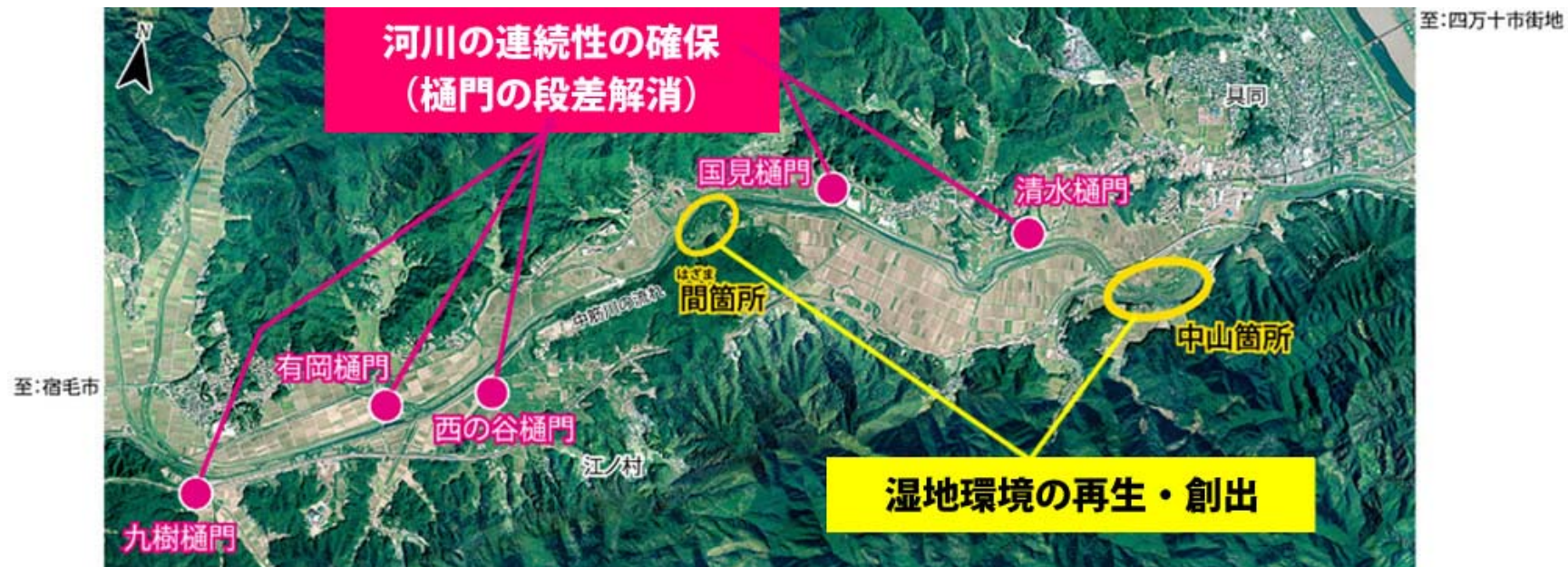
①アユの瀬づくり事業	アユの産卵場となる瀬が広がる昔ながらの河原の風景の再生	四万十川入田地区
②ツルの里づくり	ツルたちが安心して越冬できる里づくり	中筋川流域
③魚のゆりかごづくり	四万十川の生き物を育む汽水域の浅場の再生	四万十川河口から坂本地区付近



四万十川流域におけるこれまでの取組(2)

ツルの里づくり事業(国土交通省 中村河川国道事務所)

ツル類が安心して越冬できる環境の再生を目指し、中筋川流域内で、ツル類の餌となる生き物を増やすための河川の連続性を確保や、ツル類のねぐら環境となる湿地環境の再生・創出に取り組んできました。



平成19年度完成

四万十川流域におけるこれまでの取組(3)

地域の取組み(四万十つるの里づくりの会)

『四万十つるの里づくりの会(平成18年度設立、事務局:中村商工会議所)』は事業箇所周辺での越冬地整備として、周辺の休耕田約6haを借り上げ、除草等を行い越冬地整備を継続的に実施しており、地元農家に依頼し無農薬の米栽培にも取り組んでいます。



整備前の休耕田



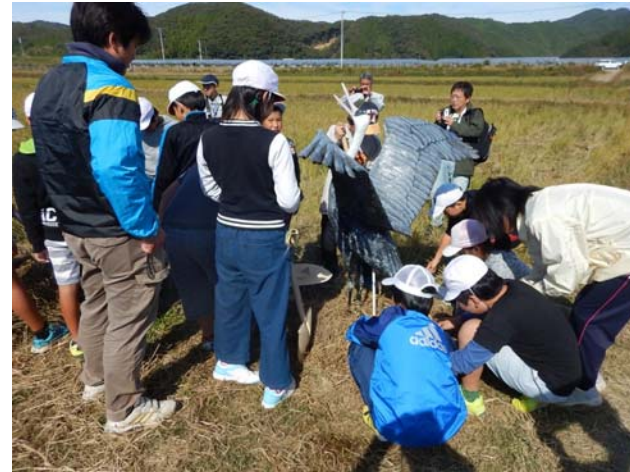
重機や人力で整備を実施



また、『つるの会』、国交省協働で、整備した『ツルの里』では、地元小中学生の体験学習として、えさ場づくりのための夏期の田植え、秋期の江ノ村箇所でのデコイの設置、普及活動のための『ツルの里まつり』の開催を継続して取り組んでいます。



中山箇所ではえさ場づくり



江ノ村箇所ではデコイの設置・環境学習



地元のお祭りとして定着した『つるの里まつり』(令和元年度で11回目の開催)

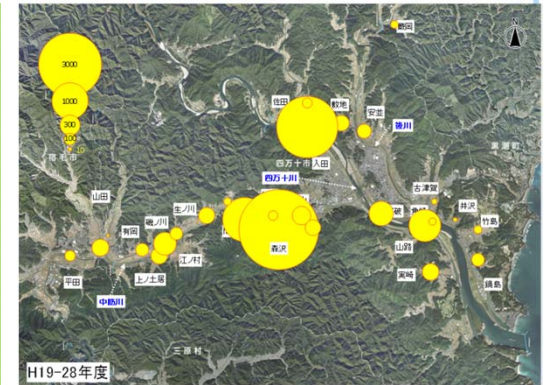
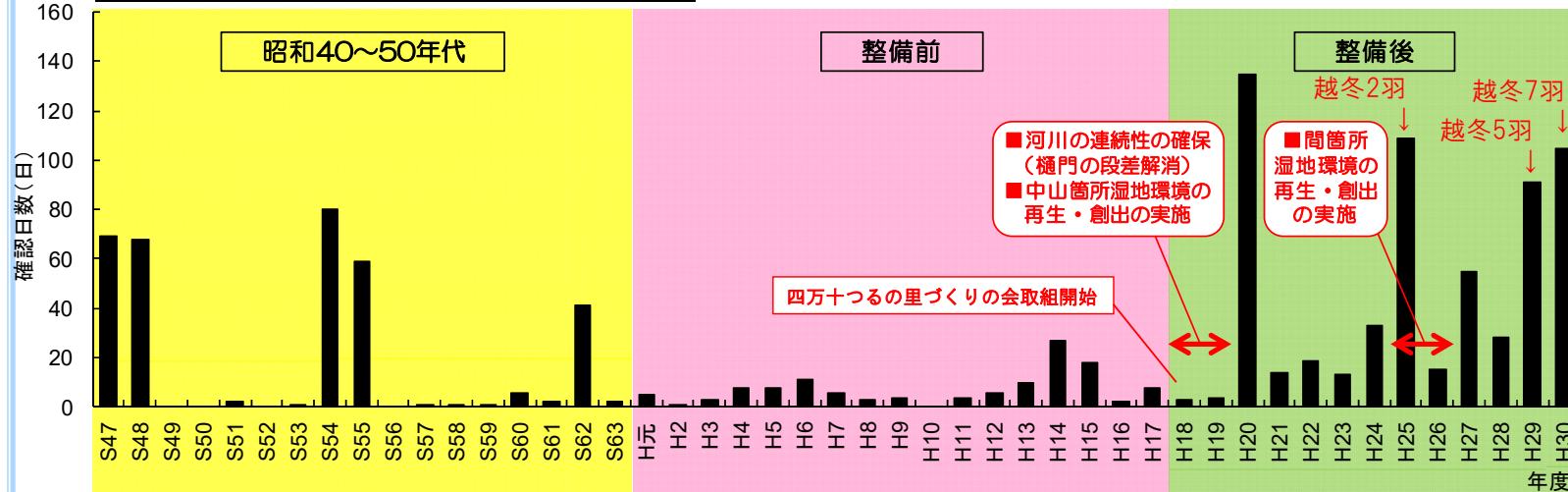
四万十川流域におけるこれまでの取組により得られた効果

ツルの里づくり事業着手、四万十つるの里づくりの会の取組以降、ツル類の確認日数が増加しているとともに、整備や取組を実施している中筋川流域においてツル類が多く確認されています。

また、整備した中山箇所湿地では平成25年度に河道内に人工的に整備した湿地では全国で初めてツル類の越冬が確認されています。

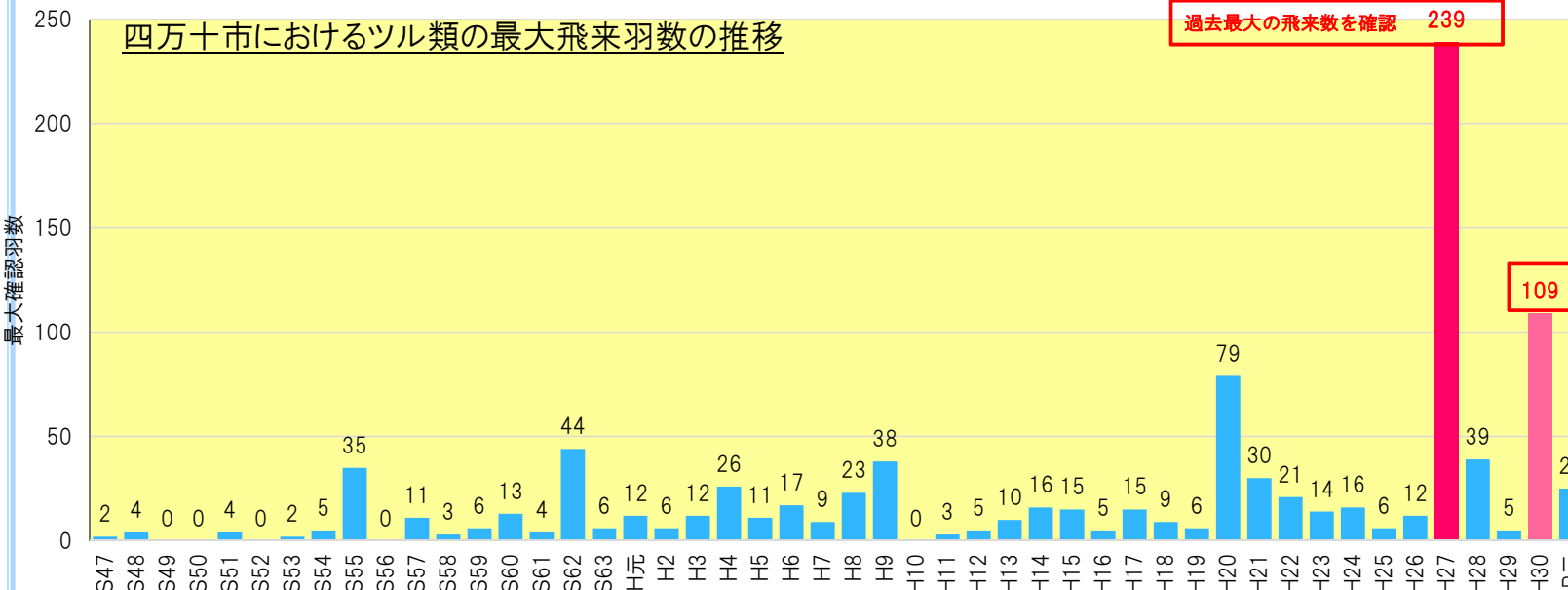
また、今年度は最大25羽のナベヅルが飛来し、そのうち3羽について記録が残る中では初めてとなる四万十市での3年連続越冬を確認しました。

四万十市におけるツル類の確認日数の推移



取組開始以降のツル類の飛来箇所毎延べ個体数

四万十市におけるツル類の最大飛来羽数の推移



H25河道内の人工的に整備した中山箇所にて越冬したマナヅル2羽

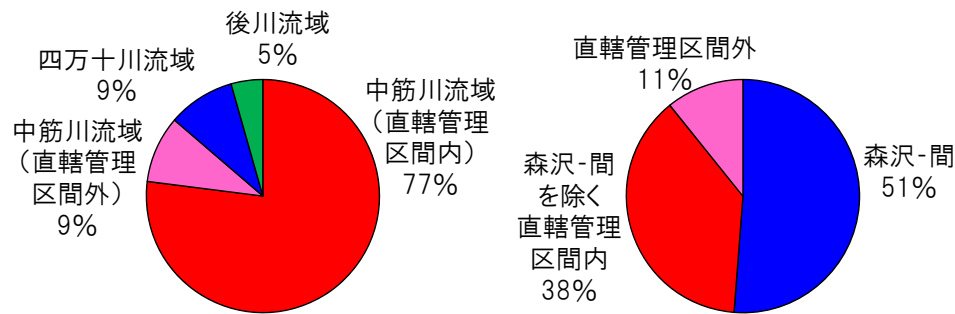
※R元はR2.1時点

四万十川流域におけるツル類生息のポテンシャル

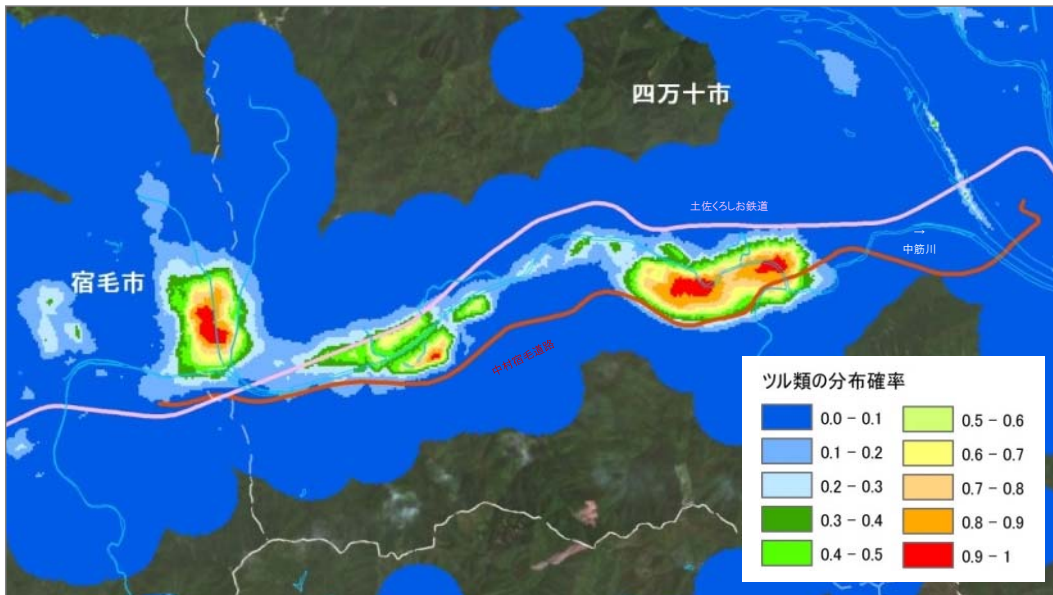
取組の中心である中筋川流域には過去よりツル類の飛来が多く確認されており、近年飛来が確認されるツル類も日中は中筋川流域の水田で採餌する姿が確認されています。

なかでも森沢-間地区が流域における飛来の中心となっており、(昭和47年度～平成30年度)水田や市街地、水域の面積、道路・鉄道からの距離、湿った草地環境、ツル類の飛来履歴(平成16年度～30年度)等を用いた分析でも、中筋川流域はツル類生息地としてポテンシャルが高いことが明らかになっています。

しかしながら、飛来するツル類に対し、越冬数は未だ少ない状況であり、国土交通省のツルの里づくり事業で整備した湿地の更なる改良や地域のツル類保護の取組の発展によりツル類の定着に向けた動きも始まっています。



ツル類の確認回数の割合(昭和47年度～平成30年度)
左:流域別、右:中筋川流域内の地域別



ツル類の生息地ポテンシャルマップ(ねぐら箇所を除く)
(平成30年度作成)

【参考】

鳥類学識者の四万十市のツル類飛来地に対する意見

中山地区

- ・**ねぐら環境として機能する可能性はある。**
- ・堤防上を走行する自動車のヘッドライト等の影響、人や犬の干渉影響を受けると考えられる。
- ⇒【対策】
- ・遮光壁の設置(樹林帯の創出、遮光ネットの利用、堤防のオギ等の刈り残しなど)
- ・高水敷に容易に近づけないようにするための水路の掘削
- ・人や犬の干渉の実態把握調査
- ・ツルのデコイ設置の継続

間地区

- ・**ねぐら環境として機能する可能性はある。**
- ・堤防上を走行する自動車のヘッドライト等の影響を受けると考えられる。
- ⇒【対策】
- ・遮光壁の設置(樹林帯の創出、遮光ネットの利用など)
- ・道路通行状況やヘッドライトの差し込み等の実態把握調査
- ・ツルのデコイ設置の継続

森沢地区(堤外地)

- ・**餌食物資源の供給の場になりうる。水浴びで利用する可能性はある。**
- ・堤防上を走行する自動車、人や犬の干渉影響を受けると考えられる。
- ⇒【対策】
- ・魚類や昆虫類が育つ多様な環境の創出(水際部の切り下げ等)

森沢地区(堤内地)

- ・水田の面積が広く電線が少ないことから、**ツル類の採食環境として適している。**
- ・田面と水路に落差がある。
- ・カメラマンの接近など人の干渉影響を受けると考えられる。
- ⇒【対策】
- ・水域の連続性を確保するための水田魚道の設置
- ・啓発看板の設置等の継続

四万十川の砂州

- ・**ねぐら環境として機能している。**
- ・入田ねぐらは落ちアユ漁の際の人の立ち入りの影響を受けている。
- ⇒【対策】
- ・落ちアユ漁の影響を受けた際に利用できる退避場(ねぐら)の複数設置